

◎ 日汉对照世界名著丛书

傲慢与偏见

高慢と偏見

简·奥斯丁

著

- 日文翻译 / 富田 彬
- 中文翻译 / 孙致礼
- 编 校 / 孟 瑾

傲慢与偏见

吉林出版
JL LINDAXUECHUBANSHE

汉对照世界名著丛书

傲慢与偏见

原 著 简·奥斯丁 日文翻译 富田 彬
中文翻译 孙致礼 编 校 孟 瑾

吉 林 大 学 出 版 社

日汉对照世界名著丛书

傲慢与偏见

原 著 简·奥斯丁 日文翻译 富田 彬
中文翻译 孙致礼 编 校 孟 瑾

责任编辑、责任校对:张显吉

封面设计:张沐沉

吉林大学出版社出版
(长春市解放大路 125 号)

吉林大学出版社发行
吉林省劳动彩印厂印刷

开本:850×1168 毫米 1/32

2000 年 5 月第 1 版

印张:17.375 插页:4

2000 年 5 月第 1 次印刷

字数:651 千字

印数:1-5 000 册

ISBN 7-5601-2373-2/I·124

定价:24.00 元

出版者的话

为了提高日语学习者的阅读能力和兴趣，加深对日本语言文化的理解，我们邀请了吉林大学部分日语专家和学者编写了日汉对照世界名著丛书（全译本）第一辑、第二辑。

本辑（第二辑）所选世界名著（《我是猫》、《包法利夫人》、《傲慢与偏见》、《双城记》、《呼啸山庄》），日文采用日本最著名版本，中文采用译林出版社译本，均出自我国著名翻译家之手。因此，所选版本具有权威性。

丛书采用同面相对的日汉对照方式，即日文原文与相应的中文同面对应，这样便于读者参照阅读，在两种语言环境中体会世界名著的魅力。

丛书充分考虑到了日文和中文的不同阅读习惯，在版面安排上，日文、中文均横排；日文排在上，中文排在下，既相互对应，又独立成文。使用文字字体也均采用日文和中文的通用字体。

本辑的出版，得到了日本岩波书店、日本在华日语专家东海林健先生、吉林大学外语学院的部分专家以及江苏译林出版社竺祖慈先生等的支持和帮助，在此一并表示深深的谢意。同时，由于我们的水平和力量所限，不足之处在所难免，敬请读者不吝赐教。

吉林大学出版社

2000年5月

第一卷

1

相当の財産をもっている独身の男なら、きっと奥さんをほしがっているにちがいないということは、世界のどこへ行っても通る真理である。

つい今し方、近所にきたばかりのそういう男の気持や意見は、知る由もないけれど、今言った真理だけは、界限の家の人たちの心にどっかりと根をおろして、もうその男は、自分たちの娘の誰か一人の旦那さんときめられてしまうのである。

「ねえ、ベネット」と、ベネット氏の夫人は、ある日夫に言った、「いよいよネザーフィールド荘園に人がはいったってこと、お聞きになって？」

ベネット氏は、まだ聞いていないと、答えた。

「でも、そうなんですよ」と夫人は言葉をかえした、「ロング夫人が今し方おいでになって、すっかり話してくださったんですよ」

ベネット氏は、それには返事をしなかった。

「あなたは、誰がはいったか、知りたくないんですか？」と、夫人はじれったそうに叫んだ。

第一卷

1

有钱的单身汉总要娶位太太，这是一条举世公认的真理。

这条真理还真够深入人心的，每逢这样的单身汉新搬到一个地方，四邻八舍的人家尽管对他的性情见识一无所知，却把他视为自己某一个女儿的合法财产。

“亲爱的贝内特先生，”一天，贝内特太太对丈夫说道，“你有没有听说内瑟菲尔德庄园终于租出去了？”

贝内特先生回答道，没有听说。

“的确租出去了，”太太说道。“朗太太刚刚来过，她把这事一五一十地全告诉我了。”

贝内特先生没有答话。

“难道你不想知道是谁租去的吗？”太太不耐烦地嚷道。

高慢と偏見

「お前のほうで話したいんだろう。聞く分には、別に反対はしないよ」これは、十分に誘いの水であった。

「ね、あなた、ロング夫人のお話では、ネザーフィールドを借りた方は、なんでも、イングランド北部のたいへんなお金持ちの青年なんだそうですよ。月曜に四頭立ての馬車で下見にきて、とても気に入って、さっそくモリス氏と話をきめてしまったんですって。聖ミカエル祭前に引越して、召使のうちのなんんかは、来週の末までに住みこむとかいうお話でしたよ」

「名前はなんて人？」

「ビングリー」

「妻君があるの、独身なの？」

「あら！ そりやもう独身ですとも、あなた！ たんまり持った独身者で、年に四、五千ポンドの収入ですって。宅の娘たちには、この上なしじゃありませんか！」

「どうして？ いったいうちの娘たちと、なんの関係があるのかね？」

「あなたったら」と、彼の妻は答えた、「まあ、なんてじれったいんでしょう！ わたしはその方が、うちの娘の一人と結婚することを考えてるんですよ」

「そういう魂胆で、ここに住みこむのかい？」

「魂胆！ とんでもない！ ずいぶんひどいことをおっしゃるのね！」

“既然你想告诉我，我听听也无妨。”这句话足以逗引太太讲下去了。

“哦，亲爱的，你应该知道，朗太太说，内瑟菲尔德让英格兰北部的一个阔少爷租去了；他星期一那天乘坐一辆驷马车来看房子，看得非常中意，当下就和莫里斯先生讲妥了；他打算赶在米迦勒节以前搬进新居，下周末以前打发几个佣人先住进来。”

“他姓什么？”

“宾利。”

“成亲了还是单身？”

“哦！单身，亲爱的，千真万确！一个有钱的单身汉，每年有四五千镑的收入。真是女儿们的好福气！”

“这是怎么说？跟女儿们有什么关系？”

“亲爱的贝内特先生，”太太答道，“你怎么这么令人讨厌！告诉你吧，我正在思谋他娶她们中的一个做太太呢。”

“他搬到这里就是为了这个打算？”

“打算！胡扯，你怎么能这么说话！”

でも、うちの娘の誰かを恋するようになるかもしれませんわ。だから、その方がきたら、すぐ訪ねてくださいな」

「僕が訪ねる手はないよ。お前と娘たちとで、出かけるか、それとも、娘たちだけやったらいいだろう。娘たちだけの方がいいかもしれないね。何しろお前は、娘たちの誰にも負けぬ器量よしだから、いっしょに出かけたりして、ビングリー氏は、お前がいちばん好きにならないものでもないからね」

「いやだわ、お上手なんかおっしゃって。そりゃわたしだって、昔はまんざらじゃなかったでしょうけど、今じゃ、たいしたものとも思ってやしませんわ。女が一人前になった娘を五人ももちや、今さら自分の器量のことなど、気にしちゃいられませんものね」

「もっとも、気にするほどの器量もなくなっている場合が、よくあるからね」

「でも、あなた、ビングリー氏が近所にいらしたら、ほんとは行って、会ってくださいよ」

「そこまでは、お約束できかねますね」

「でも、娘たちのことを考えてやってくださいな。娘の一人を立派に片づけられるんだってことを、ちょっとでもお考えになってください。ウィリアム・ルーカス卿と夫人も、そのためにわざわざお出かけになる決心をなすったそうですよ。だって、新しくきた人を訪ねるようなことは、ふだんはしない方たちですものね。ほんとに、あなたに行っていたかなくちゃ、わたしたちまで、行けないんですから」

他兴许会看中她们中的哪一个，因此，他一来你就得去拜访他。”

“我看没有那个必要。你带着女儿们去就行啦，要不你索性打发她们自己去，这样或许更好些，因为你的姿色并不亚于她们中的任何一个，你一去，宾利先生倒作兴看中你呢。”

“亲爱的，你太抬举我啦。我以前确实有过美貌的时候，不过现在却不敢硬充有什么出众的地方了。一个女人家有了五个成年的女儿，就不该对自己的美貌再转什么念头了。”

“这么说来，女人家对自己的美貌也转不了多久的念头啦。”

“不过，亲爱的，宾利先生一搬到这里，你可真得去见见他。”

“告诉你吧，这事我可不能答应。”

“可你要为女儿们着想呀。请你想一想，她们谁要是嫁给他，那会是多么好的一门亲事。威廉爵士夫妇打定主意要去，还不就是为了这个缘故，因为你知道，他们通常是不去拜访新搬来的邻居的。你真应该去一次，要不然，我们母女就没法去见他了。”

高慢と偏見

「そりやまた馬鹿におかたいこったね。なに、ピングリー氏は、お前が行けば、喜ぶよ。僕は一筆書いて、お前に届けてもらうことにしよう、娘のどれなりと勝手に選びくださば幸甚に存じますってね。もっとも、リジーのために、一言推薦の辞は、ぜひいれておくがね」

「そんなこと、していただきたくありませんわ。リジーは、なにも、他の娘より見どころがあるわけじゃないんですもの。あの娘は、ジェーンの器量の半分がとこもなく、リディアの愛嬌の半分ももっていませんよ。それにあなたは、何かと言うと、あの娘をひいきなさるのね」

「そろいもそろって、たいして取り柄のない娘ばかりだよ」と、彼は答えた、「みんな、その辺の娘と同じように、低能で無知だが、リジーは、あれで、姉妹たちよりは、いくらかかしこいところがあるよ」

「ベネット、あなたは、御自分の子供を、よくもそんなふうに悪く言えますわね！あなたは、わたしをいじめて、おもしろかっていらっしゃるんでしょう。わたしのあわれな神経には、ちっとも同情してくださらないのね」

「そりや、お前の誤解だよ。僕は、お前の神経には、大いに尊敬をはらっているさ。何しろ、お前の神経は、僕の年来の友だちだものな。僕はすくなくともここ二十年の間、お前がその神経のことを、思いやり深く言い言いするのを聞かされてきたんだもの」

「ああ！あなたは、わたしがどんなに苦しんでいるか、おわかりにならないんですわ」

“你实在过于多虑了。宾利先生一定会很高兴见到你的。我可以写封信让你带去，就说他随便想娶我哪位女儿，我都会欣然同意。不过，我要为小莉齐美言两句。”

“我希望你别做这种事。莉齐丝毫不比别的女儿强。我敢说，论漂亮，她远远及不上简；论性子，她远远及不上莉迪亚。可你总是偏爱她。”

“她们哪一个也没有多少好称道的，”贝内特先生答道。“她们像别人家的姑娘一样，一个个又傻又蠢，倒是莉齐比几个姐妹伶俐些。”

“贝内特先生，你怎么能这样糟蹋自己的孩子？你就喜欢气我，压根儿不体谅我那脆弱的神经。”

“你错怪我了，亲爱的。我非常尊重你的神经。它们是我的老朋友啦。至少在这二十年里，我总是听见你郑重其事地说起它们。”

“唉！你不知道我受多大的罪。”

「でも、お前はその苦しみにうちかって、年取四千ポンドの青年が、この界限にわんさと押しよせてくるのを見るまで、長生きするだろうよ」

「そんな人が二十人きたって、あなたは訪ねてくだらないんだもの、なんにもなりやしませんわ」

「そりゃ、二十人くれば、僕だって片っぱしから訪ねるよ」

ベネット氏は、才気と皮肉と隔意と気まぐれの奇妙な混合物だったから、二十三年の経験では、彼の妻は、まだ十分に彼の気性をのみこむことができなかった。そこへ行くと、彼女の心の方が、見抜きやすかった。彼女は、貧弱な理解力と乏しい知識と移り気な性質の女であった。彼女は、何か気に喰わないことがあると、神経のせいだと思いこんだ。一生の仕事は、娘たちを結婚させること、一生の慰安は、訪問と世間話とであった。

2

ベネット氏は、ビングリー氏を訪問した人たちの中でも、早い方の一人だった。妻に対しては、最後まで行かないと頑張っていたけれど、かねがね行くつもりはあったのだった。だから妻は、夫が訪ねた日の晩方までは、なんにも知らずにいたのだった。その晩、彼はこんなふうのうちあげた——次女がせつせと帽子の手入れをしているのを眺めながら、いきなり彼女に話しかけた。

“我希望你会好起来，亲眼看见好多每年有四千镑收入的阔少爷搬到这一带。”

“既然你不肯去拜访，即使搬来二十个，那对我们又有什么用。”

“放心吧，亲爱的，等到搬来二十个，我一定去挨个拜访。”

贝内特先生是个古怪人，一方面乖觉诙谐，好挖苦人，另一方面又不苟言笑，变幻莫测，他太太积二十三年之经验，还摸不透他的性格。这位太太的脑子就不那么难捉摸了。她是个智力贫乏、孤陋寡闻、喜怒无常的女人。一碰到不称心的时候，就自以为神经架不住。她平生的大事，是把女儿们嫁出去；她平生的慰藉，是访亲拜友和打听消息。

2

贝内特先生是最先拜访宾利先生的人儿之一。本来，他早就打算去拜见他，可在太太面前却始终咬定不想去。直到拜访后的当天晚上，贝内特太太才知道真情。当时，事情是这样透露出来的。贝内特先生看着二女儿在装饰帽子，便突然对她说道：

高慢と偏見

「ビングリー氏のお気に召すといいがね、リジー」

「ビングリーさんが何を好くか、わたしたちにわかるもんですか」と、彼女の母はいまいましたように言った、「訪ねて行こうともしないくせして」

「お忘れになったのね、お母さま」とエリザベスが言った、「わたしたちは会でお目にかかれますわよ。そしてロングさんが、あの方を紹介してくださると約束なさったのよ」

「ロングさんが、そんなことしてくれるとは信じられませんね、あの方には、御自分の姪が二人もあるんですもの。手前勝手な偽善家で、あんな人ってあるもんですか」

「僕もそう思うよ」と、ベネット氏が言った、「お前があの人を尽力をあてにしないのは、感心だよ」

ベネット夫人は、それには返事をしまいと思った。しかし黙っていることもできない彼女は、娘の一人にあたり散らした。

「キッティ、後生だから、そんなに咳ばかりしないでいておくれ。すこしはわたしの神経のことも、考えるものだよ。お前は、わたしの神経をずたずたにひきさいてしまう」

「キッティだって、咳の手加減まではできないよ」と、彼女の父が言った、「あいにくな時にでてくるのさ」

「わたし、何もおもしろずくで、咳をするんじゃないくつてよ」と、キッティは

“我希望宾利先生会喜欢这顶帽子，莉齐。”

“既然我们不打算去拜访宾利先生，”做母亲的愤然说道，“我们怎么会知道人家喜欢什么。”

“你忘啦，妈妈，”伊丽莎白说道，“我们要在舞会上遇见他的，朗太太还答应把他介绍给我们。”

“我不相信朗太太会这样做。她自己有两个侄女。她是个自私自利、假仁假义的女人，我一点也瞧不起她。”

“我也瞧不起她，”贝内特先生说道。“我很高兴，你不指望她来帮忙。”

贝内特太太不屑答理他，可是忍不住气，便骂起女儿来。

“别老是咳个不停，基蒂，看在老天爷份上！稍微体谅一下我的神经吧。你咳得我的神经快胀裂啦。”

“基蒂真不知趣，”父亲说道，“咳嗽也不拣个时候。”

“我又不是咳着玩的，”基蒂气冲冲地答道。

いらいらしながら答えた、「あんたの今度の舞踏会はいつなの？」「リジー」

「さ来週のあしたよ」

「そうそ、そうだったね」と、彼女の母が叫んだ、「そうすると、ロングさんはその前日まで帰ってこないんだから、あの方を紹介してくれられないわけだわ。御自分だってあの方を知らないわけだもの」

「じゃ、お前の方が一足先にごめんをこうむって、ビングリー氏をあの人に紹介してあげればいい」

「だめ、だめですよ、ベネット。第一、わたしがまだ近づきになっていないんですもの。あなたは、どうしてそうわたしをからかってばかりいらっしゃるの？」

「いや、僕はお前の用意周到に頭をさげるよ。なるほど、二週間の近づきじゃ、たしかになにほどのこともないね。二週間のおわりまでに、どんな人間かをほんとうに知るなんてことは、とてもできることじゃないさ。しかし、僕らがやらないと、誰かほかの人がやるよ。けっきょくロングさんと二人の姪も、運次第なんだから、ロングさんが親切な行いだと思う以上、もしお前がその紹介役をいやだというなら、僕がひとつ引きうけようじゃないか」

娘たちは、父を見つめた。ベネット夫人は、ただこう言った、「馬鹿らしい！」と。

「その力のはいった感嘆詞は、いったいどういう意味？」と、彼は叫んだ、「お前は、紹介の形式のことを、馬鹿らしいと考えるのかい？その形式を強調すること

“你们下一次舞会定在哪一天，莉齐？”

“从明天算起，还有两个星期。”

“啊，原来如此，”母亲嚷道。“朗太太要等到舞会的前一天才回来，那她就不可能向你们介绍宾利先生啦，因为她自己还不认识他呢。”

“那么，亲爱的，你就可以占朋友的上风，反过来向她介绍宾利先生啦。”

“办不到，贝内特先生，办不到，我自己还不认识他呢。你怎么能这样取笑人？”

“我真佩服你的审慎。结识两周当然微不足道。你不可能在两周里真正了解一个人。不过，这件事我们不抢先一步，别人可就不客气了。不管怎么说，朗太太和她侄女总要结识宾利先生的。因此，你要是不肯介绍，我来介绍好了，反正朗太太会觉得我们是一片好意。”

姑娘们都瞪着眼睛望着父亲。贝内特太太只说了声：“无聊！无聊！”

“你乱嚷嚷什么？”贝内特先生大声说道。“你以为替人家作介绍讲点礼仪是无聊吗？”

高慢と偏見

を、馬鹿らしいと考えるのかい？ その点で、僕はお前にまったく同意できないね。メアリ、お前はどうかね？ なにしろお前は、思慮の深いお嬢さんだからな。それに偉大な本を読んで、抜き書きもしてるんだものな」

メアリは、なにか気のきいたことを言いたいと思ったけれど、どう言っていかなかった。

「メアリが頭を整理している間に、」と、彼は言葉をつづけた、「僕らは、ビングリー氏のことに話をもどそうではないか」

「ビングリーさんのことは、もうたくさんですわ」と、彼の妻が叫んだ。

「それはお気の毒なこった。なぜ、もっと早くそう言ってくれなかったの？ それを今朝知っていたら、僕は訪ねてなど行かなかったのに。どうもとんでもないことになってしまった。しかし、実際に訪ねてしまったのだから、今さら近づきをのがれることもできないしね」

婦人たちのおどろきは、彼の願っていた通りだった。ベネット夫人のおどろきは、たぶん誰よりもひどかった。もっとも彼女は、最初の喜びの混乱がおわると、自分はしじゅう、こうなるものと期待していたと、明言しだしたけれど。

「まあ、よく行ってくだすったわね、ベネット！ でもわたし、しまいいはあなたは、わたしの言うことをきいてくださるものと思ってましたわ。娘をかわいいと思ってらっしゃるから、こんな近づきを無視なさるようなことはない、信じてましたわ。まあ、わたしほんとにうれしいわ！ それに、今朝いらしておきながら、今まで、そのことを一言もおっしゃらないなんて、愉快じゃありませんか」

我可不大同意你这个看法。你说呢，玛丽？我知道，你是个富有真知灼见的小姐，读的都是鸿篇巨制，还要做做札记。”玛丽很想发表点高见，可又不知道怎么说是好。

“趁玛丽深思熟虑的时候，”贝内特先生接着说道，“我们再回头谈谈宾利先生。”

“我讨厌宾利先生，”太太嚷道。

“真遗憾，听见你说这话。可你为什么不早对我这么说呢？假使我今天早上了解这个情况，我肯定不会去拜访他。非常不幸，既然我已经拜访过了，我们免不了要结识他啦。”

正如他期望的那样，太太小姐们一听大为惊讶，尤其是贝内特太太，也许比别人更为惊讶。不过，大家欢呼雀跃了一阵之后，她又声称：这件事她早就料到了。

“亲爱的贝内特先生，你心肠太好啦！不过我早就知道，我终究会说服你的。你那么疼爱自己的女儿，决不会轻慢这样一位朋友。啊，我太高兴啦！你这个玩笑开得真有意思，早上就去过了，直到刚才还只字不提。”

「さあ、キッティ、好きなだけ咳をしなさい」と、ベネット氏は言った。そして、そう言いながら、部屋を出て行った、妻の有頂天にへきえきしたので。

「なんていいお父さまなんだろう！ ね」

戸がしまった時に、彼女は言った、「お前たちは、とてもお父さまの御親切におむくいできるものじゃありませんよ。あの事については、わたしにだって、そうですよ。わたしちがぐらいの年輩になると、毎日新しい近づきをこしらえていくなんてことは、そう愉快なことじゃないんだよ。でも、お前たちのためなら、わたしたちは、どんなことでもしてあげますよ。リディア、わたしのいい子さん、お前はいちばん年下だけど、ピングリーさんは、今度の舞踏会で、きっとお前とおどってくださるよ」

「おお！」と、リディアはきっぱりと言った、「わたし平気だわ。いちばん年下だって、いちばん背が高いんだもの」

それから彼等は、彼がどれくらい早く、ベネットの訪問の返礼にくるかをあてつけたり、いつ彼を食事に招いたらいいかを決めたりして、その晩を過ごした。

3

ベネット夫人は、五人の娘に加勢してもらって、何かと訪問について夫に尋ねた

“好啦，基蒂，你可以尽情地咳嗽啦，”贝内特先生说道。他一边说，一边走出房去，眼见着太太那样欣喜若狂，他真有些厌倦。

“孩子们，你们有个多好的爸爸啊。”门一关上，贝内特太太便说道。“我不知道你们怎样才能报答他的恩情，也不知道你们怎样才能报答我的恩情。我可以告诉你们，到了我们这个年纪，谁也没有兴致天天去结交朋友。但是为了你们，我们是什么事情都乐意去做。莉迪亚，我的宝贝，虽说你年纪最小，可是开起舞会来，宾利先生肯定会跟你跳。”

“哦！”莉迪亚满不在乎地说，“我才不担心呢。我尽管年纪最小，个子却最高。”

当晚余下的时间里，太太小姐们猜测起宾利先生什么时候会回拜贝内特先生，盘算着什么时候该请他来吃饭。

3

贝内特太太尽管有五个女儿帮腔，宾利先生长宾利先生短地问来问去，

けれど、ビングリー氏の人柄を十分に聞きだすことはできなかった。彼等は、手をかえ品をかえて攻め立てた——露骨な質問をしたり、巧妙な山をかけたたり、それとなく当ってみたりして。だが、彼は誰の手にももらなかった。それで彼等は、けっきょく、お隣のルーカス夫人のまた聞きの情報をうけいれるより仕方がなかった。ルーカス夫人の報告は、たいへん彼のことをよく言っていた。ウィリアム卿は、彼が気に入ったということであった。彼はとても若く、びっくりするほどの好男子で、このうえもなく愛想がよく、そして最後に、彼は今度の会には大勢の仲間を連れてくると言っていたそうである。これ以上うれしいことがあろうか！踊りが好きだということは、恋におちいる一歩手前である。ビングリー氏の心をものにできるとい希望が、みんなの心に湧いてきた。

「もしわたしの娘の一人が、運よくネザーフィールドで世帯をもち、」ベネット夫人は夫に言った、「他の娘たちも、しあわせな結婚をするところを見とどけることができれば、わたしはもうなんにも望むことはありませんのよ」

二、三日すると、ビングリー氏はベネット氏の訪問の返礼にきて、十分ほど彼の書斎で彼といっしょに腰かけていた。彼は、かねてうつくしいと聞きおよんでいた若い令嬢たちの姿を、見せてもらえるものと思っていた。ところが、彼は父だけに会った。令嬢たちは、彼よりはいくらか幸運であった。というのは、彼等は二階の窓から、彼が青い上衣を着て黒い馬に乗ってきたことを、確かめただけ、分がよかったからである。

その後間もなく、食事への招待が、発せられた。

可丈夫总不能给她个满意的回答。母女们采取种种方式对付他——露骨的盘问，奇异的假想，不着边际的猜测，但是，任凭她们手段多么高明，贝内特先生都一一敷衍过去，最后她们给搞得无可奈何，只能听听邻居卢卡斯太太的间接消息。卢卡斯太太说起来赞不绝口。威廉爵士十分喜欢他。他年纪轻轻，相貌堂堂，为人极其随和，最令人欣慰的是，他打算拉一大帮人来参加下次舞会。真是再好不过啦！喜欢跳舞是谈情说爱的可靠步骤，大家都热切希望去博取宾利先生的欢心。

“我要是能看到一个女儿美满地住进内瑟菲尔德庄园，”贝内特太太对丈夫说道，“看到其他几个女儿也嫁给这样的好人家，我也就心满意足了。”

几天以后，宾利先生前来回访贝内特先生，跟他在书房里坐了大约十分钟。他对几位小姐的美貌早有耳闻，希望能够趁机见见她们，不想只见到了她们的父亲。倒是小姐们比较幸运，她们围在楼上的窗口，看见他穿着一件蓝外套，骑着一匹黑马。

过了不久，贝内特先生便发出请帖，请宾利先生来家吃饭。

ベネット夫人は、主婦の手並をお目にかける献立の用意をすっかりととのえてしまった時、返事がとどいて、食事は延期されることになった。ビングリー氏は、次の日に町へ出かけなければならなかった。だから、せっかくの招待に応ずることができない、云々というのであった。ベネット夫人は、すっかり面くらった。彼女は、ハーフォードシアにきたばかりの彼が、町にどんな用事があるのか、見当がつかなかった。ひょっとしたら、彼はいつも諸所方々をとんで歩いて、当然いるべきはずのネザーフィールドにはけっして落着いていないのではあるまいかと、心配になってきた。ルーカス夫人は、彼がロンドンへ行ったのは、ただ舞踏会のために大勢の仲間を連れてくるためなのであろうという考えを言い出したので、彼女の心配はいくらかしずまった。間もなくすると、ビングリー氏が十二人の婦人と七人の紳士を会に連れてくるという評判がたった。娘たちは、婦人の数の多いのに心をいためた。しかし舞踏会の前日になると、彼は十二人ではなく、六人しか——それも、五人の姉妹と一人の従妹を、ロンドンから連れてきたということを聞いて、安心した。そして一行がいよいよ会場にはいった時には、全部で五人しかいなかった——ビングリー氏と、二人の姉妹と、その姉の方の夫と、もう一人の青年とだった。

ビングリー氏は、好男子で紳士らしく、晴ればれとした顔をし、くつろいだ気取らぬ態度だった。彼の姉妹は、非常な美人で、見るからに当世向きの様子をしていた。彼の義兄のハースト氏は、ただ紳士らしいと言うだけだけれど、彼の友人のダーシー氏は、立派な背の高い容姿と、うつくしい眼鼻立ちと、品のいい態度と、

貝内特太太早已计划了几道菜，好借机炫耀一下她的当家本领，不料一封回信把事情给推迟了。原来，宾利先生第二天要进城，因此无法接受他们的盛意邀请。贝内特太太心里大为惶惑。她想，宾利先生刚来到赫特福德郡，怎么又要进城有事。于是她心里顾虑开了：莫非他总要这样东漂西泊，来去匆匆，而不会正儿八经地住在内瑟菲尔德。幸亏卢卡斯太太兴起一个念头，说他可能是到伦敦去多拉些人来参加舞会，这才使贝内特太太打消了几分忧虑。顿时，外面纷纷传说，宾利先生要带来十二位女宾和七位男宾参加舞会。小姐们听说这么多女士要来，不禁有些担忧。但是到了舞会的头一天，又听说宾利先生从伦敦没有带来十二位女宾，而只带来六位——他自己的五个姐妹和一个表姐妹。小姐们这才放了心。后来等宾客走进舞厅时，却总共只有五个人——宾利先生，他的两个姐妹，他姐夫，还有一个青年。宾利先生仪表堂堂，很有绅士派头，而且和颜悦色，大大落落，丝毫没有骄揉造作的架势。他的姐妹都是些窈窕女子，仪态雍容大方。他姐夫赫斯特先生只不过像个绅士，但是他的朋友达西先生却立即引起了全场的注意，因为他身材魁伟，眉清目秀，举止高雅，

高慢と偏見

彼がはいってきてももの五分とたたないうちに一座のうちにひろまった年収一万ポンドはいるという噂とで、すぐに部屋中の注意を一身にあつめた。男子たちは、まあ男ぶりのいい方だと言い、婦人連は、ビングリー氏よりはずっと好男子だと言った。そしてその夜の半頃までは、彼も感嘆の眼で見られていたが、とうとう彼の態度が嫌悪感を与え、人気の汐が引いていった。というのは、彼はお高くとまっていて、一座の人々を眼下に見くだし、いっしょになって楽しまないということが、わかってきたからであった。そして、もはやダービシアの彼の広大な全領地も、彼の顔に愛想がなくいやみなことや、彼の友人のビングリー氏とは比べものにならぬということの弁解にはならないのであった。

ビングリー氏は、すぐに部屋の中のすべての重だった人たちと、近づきになってしまった。彼は快活であければなしで、どの踊りにも片ぱしから参加し、舞踏会が早くすみすぎたと言って腹をたて、自分もネザーフィールドで一つ催すことにしようと言った。そういう人付きのいい性質は、黙っていても人に知れるものである。彼と彼の友人とは、なんというちがいであろう！ ダーシー氏は、ハースト夫人と一度踊り、ビングリー嬢と一度踊っただけで、他の婦人には紹介されることをことわり、その晩のあとの時間は、部屋の中を歩きまわって、時々自分の仲間に話しかけることで過ごしたのだった。彼の性格は、もう疑う余地はなかった。彼は世界中で最も高慢な最も不愉快な男であった。誰もがもう二度ときてもらいたくないと思った。中でも彼に猛烈な反感をいだいた一人はベネット夫人であった。彼女は、もともと彼の態度を好かなかったが、彼が彼女の娘の一人を軽蔑するにいたって、

进场不到五分钟，人们便纷纷传说，他每年有一万镑收入。男宾们称赞他一表人材，女宾们声称他比宾利先生漂亮得多。差不多有半个晚上，人们都艳羡不已地望着他。后来，他的举止引起了众人的厌恶，他在人们心目中的形象也就一落千丈，因为大家发现他自高自大，目中无人，不好逢迎。这样一来，纵使他在德比郡的财产再多，也无济于事，他那副面孔总是那样讨人嫌，那样惹人厌，他压根儿比不上他的朋友。

宾利先生很快就结识了全场所有的主要人物。他生气勃勃，无拘无束，每曲舞都跳，只恨舞会散得太早，说他自己要在内瑟菲尔德庄园再开一次。如此的好性子，自然会赢得众人的好感。他跟他的朋友形成多么鲜明的对照！达西先生只跟赫斯特夫人跳了一次，跟宾利小姐跳了一次，有人想向他引荐别的小姐，他却一概拒绝，整个晚上只在厅里逛来逛去，偶尔跟自己人交谈几句。他的个性太强了。他是世界上最骄傲、最讨人嫌的人，人人都希望他以后别再来了。其中对他最反感的，要算贝内特太太，她本来就讨厌他的整个举止，后来他又得罪了她的一个女儿，

彼女はにくらしい人だと思うようになった。

エリザベス・ベネットは、紳士側の人数が足りなかったため、二回ほど踊りをやすまなければならなかった。その間のことであるが、ダーシー氏はすぐ近くに立っていたので、折から数分間踊りはずして、ダーシー氏にぜひ踊りの仲間に加わるようにすすめにきたビングリー氏と立ち話をしているのを、彼女は聞くともなく耳にいれたのであった。

「さあ、ダーシーさん」と、彼は言った、「ぜひ踊りたまえよ。僕は、君がそんなまぬけな恰好をして、一人でつつたっているのを見るのは、いやですよ。踊った方が、よっぽどましですよ」

「僕は踊るもんか。相手がよく知った人じゃないと、とてもいやだってことは、君も知ってるじゃないか。こんな会で、踊れますかってんだ。君の姉妹は約束ずみだし、ほかにがまんして踊れる御婦人が、この部屋に一人でもいるかね」

「僕は君のように、そうむつかしいことを言いたくないね」と、ビングリーが叫んだ、「よしんば王国一つやると言われてもさ！ 名誉にかけて言うが、僕はこれまでに、今夜ほど愉快な娘さんたちの大勢にお目にかかったことはないよ。中でも数人は、とびぬけてきれいだものな」

「君は、部屋中でただ一人のきれいな娘と、踊ってるんだもの」ダーシー氏はそう言って、長女のベネット嬢の方を見た。

她便由讨厌变成了深恶痛绝。

由于男宾人数少，有两曲舞伊丽莎白·贝内特只得干坐着。这当儿，达西先生一度站在离她不远的地方，宾利先生走出舞池几分钟，硬要达西跟着一起跳，两人的谈话让她听到了。

“来吧，达西”宾利先生说，“我一定要你跳。我不愿意看见你一个人傻乎乎地站来站去。还是去跳吧。”

“我绝对不跳。你知道我多讨厌跳舞。除非有个特别熟悉的舞伴。这样的舞会简直让人无法忍受。你的姐妹在跟别人跳，这舞厅里除了她俩之外，让我跟谁跳都是活受罪。”

“我可不像你那么挑剔，”宾利嚷道，“决不会！说实话，我生平从没像今天晚上这样，遇见这么多可爱的姑娘。你瞧，有几个非常漂亮。”

“你当然啦，舞厅里仅有一位漂亮姑娘，就在跟你跳舞嘛，”达西说道，一面望望贝内特家大小姐。